

抄鳴雷

2019.6.21

宇都宮市のNPO法人ほろとスペースひだまりは、精神に障害のある人が地域で暮らしていくための

の支援を行っている。その一つが中華弁当を作る「ふくふく亭」の運営である▼利用者19人中4人ほどが順番で調理に当たり、そうした作業の難しい人は白衣の洗濯など周辺作業を手伝う。調理師の元食堂経営者が指導しており、味の評判は良い▼国が障害者就労施設などの受注の機会を確保するため、優先調達推進法を施行したのは2013年。しかし趣旨は簡単に浸透せず、法人の渡辺（わたべ）代表は「事業所に売り込んでも反応はいまひとつだった」と振り返る▼宮

業努力もあり、県立衛生福祉大
学校や済生会宇都宮病院など販
売先は年々増えている。そこに
昨年から県議会が加わった。県
が、職員の親睦会の弁当など公
費以外の注文にも優先調達の
目標額を設定したのは合わせ、
自民など全会派が購入を始めた
▼ふくふく亭は他の障害者施設
と一緒に交代で配達している。
開会中の6月県議会では48個を
受注。事務局からの注文もあつ
た。フェイスブックで取り上げ
PRしてくれる県議もいて、渡
辺代表は「励みになる」と歓迎す
る▼障害者の多くは月々の年金
と就労施設の賃金で生活する。
賃金は少ないが、働く喜びが味
わえる。県議会の取り組みは働
く場の拡大につながっている。